

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 口 甲口保	第 3 号	氏 名	水上 美樹
	乙 口 乙口保 口 修			
審 査 委 員		主 査 伊賀 弘起		
		副 査 吉村 弘		
		副 査 岩本 勉		

題 目

INVESTIGATING FACTORS RELATED TO THE ACQUISITION OF MASTICATORY FUNCTION IN DOWN SYNDROME CHILDREN

(ダウン症候群児の咀嚼機能獲得に関連する要因の検討)

要 旨

ダウン症候群（以下、DS）は、染色体疾患を有する出生児の中でも最も患者数が多い疾患である。DS児は、誤嚥のリスクが高く、その誤嚥や食事に関するリスクを高めている要因の1つが丸のみ（咀嚼機能不全）である。本研究では、DS児の誤嚥や窒息のリスクを回避するためにその咀嚼機能の獲得を妨げる要因を特定することを目的とした。

2012年10月から2017年10月の間に日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニックを受診したDS児のうち、咀嚼機能を獲得していない75人（男児44人、女児31人）の診療録から、年齢、出生時体重、栄養摂取方法、偏食、感覚過敏、太田ステージで評価された認知発達、粗大運動機能、咬合発育段階（Hellman's dental stage）、および摂食時の舌突出と口唇閉鎖、咀嚼を抽出した。1年間の受療による咀嚼機能の獲得と各評価項目との関連を、ウィルコクソンの符号順位検定を行い検討した。さらに、危険率10%未満の項目を説明変数として、ロジスティック回帰分析を行った。

その結果、1年後の咀嚼機能の獲得と関連のあった項目は、年齢、低出生体重、偏食、および粗大運動で、粗大運動は、咀嚼機能の獲得に最も強く関連する因子であることが明らかになった。

安定した下顎運動のコントロールにより持続した咀嚼が営まれるためには、歩行の獲得が重要である。このことから、粗大運動が遅れがちなDS児にとって咀嚼機能の獲得を目指す指導・訓練を行う際には、下肢の安定とコントロールができる粗大運動の獲得も視野に入れて行う必要があることが示唆された。

以上より、本研究は歯科医学の発展に寄与する優れた研究内容であり、申請者は当該分野における学識と研究能力を有していると評価し、博士（口腔保健学）の学位授与に値すると判定した。